

○ファームウェアのリビジョンアップを行う前に必ずお読みください

---

Rev.15.01.10より前のファームウェアからリビジョンアップを行う際には以下の点にご注意ください。

Rev.15.01.10では以下の変更をしています。

「NVR510 Rev.15.01.10 リリースノート」より、  
[http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/relnote/Rev.15.01/relnote\\_15\\_01\\_10.txt](http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/relnote/Rev.15.01/relnote_15_01_10.txt)

[1] 本機にアクセスするときのセキュリティーを強化した。

(8) 工場出荷状態の設定にtelnetd host lanコマンドを追加した。

Rev.15.01.10以降のファームウェアを使用して工場出荷状態からプロバイダーを設定すると、上記のコマンドが設定されているため遠隔からTELNETでログインができなくなります。  
遠隔からTELNETでログインをする場合はtelnetd hostコマンドの設定を変更してください。

---

Rev.15.01.24 からの変更点

---

#### ■機能追加

[1] YNOのLASで、機器統計情報の送信に対応した。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/yno/agent/las/index.html>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[2] BIGLOBE IPv6 オプションに対応した。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/biglobe/index.html>

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[3] IKEv2を使用したリモートアクセスVPN接続に対応した。

この変更により、AndroidとiOSの端末でIKEv2を使用したリモートアクセスVPN接続が可能になる。

[http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/ipsec/ikev2\\_ras/index.html](http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/docs/ipsec/ikev2_ras/index.html)

外部仕様書をよくご確認のうえ、ご利用ください。

[4] フィルター型ルーティングでIPv6に対応した。

[5] FQDNフィルター機能で、IPv6のフィルター型ルーティングに対応した。

[6] コマンドラインから以下を設定したとき、再起動を促す注意喚起メッセージを表示するようにした。

- パケットバッファの設定
- NATの動作タイプの変更

[7] ipsec ike durationコマンドで、古くなったSAの寿命を強制的に短縮する時間を設定できるようにした。

OSAの寿命の設定

[書式]

ipsec ike duration SA GATEWAY\_ID SECOND [KBYTES] [rekey REKEY] [forced-reduction=DEL\_TIME] ★

no ipsec ike duration SA GATEWAY\_ID [SECOND [KBYTES] [rekey REKEY] [forced-reduction=DEL\_TIME]] ★

[設定値及び初期値]

• SA

[設定値]:

設定値	説明
ipsec-sa (もしくは child-sa)	IPsec SA (CHILD SA)
isakmp-sa (もしくは ike-sa)	ISAKMP SA (IKE SA)

[初期値]: -

• GATEWAY\_ID

[設定値]: セキュリティー・ゲートウェイの識別子

[初期値]: -

• SECOND

[設定値]: 秒数(300..691200)

[初期値]: 28800

• KBYTES

[設定値]: キロ単位のバイト数(100..100000)

• REKEY: SAを更新するタイミング

[設定値]:

設定値	説明
70% - 90%	パーセント
off	更新しない(SAパラメーターでisakmp-sa (ike-sa) を指定したときのみ設定可能)

[初期値]: 75%

• DEL\_TIME

[設定値]: 古くなったSAの寿命を強制的に短縮する時間(1..691200) ★

[初期値]: -

[説明]

各 SA の寿命を設定する。

KBYTES パラメーターを指定した場合には、SECOND パラメーターで指定した時間が経過するか、指定したバイト数のデータを処理した後に SA は消滅する。

KBYTES パラメーターは SA パラメーターとして `ipsec-sa (child-sa)` を指定したときのみ有効である。SA の更新は KBYTES パラメーターに設定したバイト数の75%を処理したタイミングで行われる。

REKEY パラメーターは SA を更新するタイミングを決定する。例えば、SECOND パラメーターで 20000 を指定し、REKEY パラメーターで75%を指定した場合には、SA を生成してから 15000 秒経過したときに新しい SA を生成する。REKEY パラメーターは SECOND パラメーターに対する比率を表すもので、KBYTES パラメーターの値とは関係がない。

SA パラメーターで `isakmp-sa(ike-sa)` を指定したときに限り、REKEY パラメーターで 'off' を設定できる。このとき、IPsec SA (CHILD SA) を作る必要がない限り、ISAKMP SA (IKE SA) の更新を保留するので、ISAKMP SA (IKE SA) の生成を最小限に抑えることができる。

その他、動作するIKEのバージョンによって異なる、本コマンドの影響、注意点については以下の通り。

#### - IKEv1

始動側として働く場合に、このコマンドで設定した寿命値が提案される。応答側として働く場合は、このコマンドの設定に関係なく相手側から提案された寿命値に合わせる。

また、ISAKMP SA に対する REKEY パラメーターを off に設定した場合、その効果を得るためには、次の2点に注意して設定する必要がある。

1. IPsec SA よりも ISAKMP SA の寿命を短く設定する。
2. ダングリングSAを許可する。すなわち、`ipsec ike restrict-dangling-sa` コマンドの設定を off にする。

#### - IKEv2

IKEv2 では SA 寿命値は折衝されず、各セキュリティー・ゲートウェイが独立して管理するものとなっている。従って、確立された SA には、常にこのコマンドで設定した寿命値がセットされる。ただし、相手側セキュリティー・ゲートウェイの方が SA 更新のタイミングが早ければ、SA はその分早く更新されることになる。

`forced-reduction` オプションに時間を指定すると、SA を更新した際に古くなった既存の SA の寿命を強制的に設定値に変更し、消滅までの時間を早めることができる。★

ただし、KBYTES パラメーターを指定した IPsec SA については、このキーワードの有無に関わらず古くなった時点で寿命を30秒に短縮する。また、IKEv1 では寿命が設定値よりも短い場合は変更しない。★

ISAKMP SA (IKE SA) の寿命が IPsec SA (CHILD SA) の寿命より先に尽きた場合は、ISAKMP SA (IKE SA) の寿命値を IPsec SA (CHILD SA) の寿命値に合わせる。

なお、このコマンドを設定しても、すでに存在するSAの寿命値は変化せず、新しく作られる SA にのみ、新しい寿命値が適用される。

#### [ノート]

`forced-reduction` オプションは以下の機種およびバージョンで使用可能。  
NVR700W は Rev.15.00.24 以降。

NVR510 は Rev.15.01.25 以降。

[8] `ipv6 route` コマンドで、ゲートウェイに RA にて決定されるデフォルトゲートウェイの指定を追加した。

OIPv6 の経路情報の追加

[書式]

```
ipv6 route NETWORK gateway GATEWAY [PARAMETER] [gateway GATEWAY [PARAMETER]]
no ipv6 route NETWORK [gateway...]
```

[設定値及び初期値]

• NETWORK

[設定値]

設定値	説明
IPv6 アドレス/プレフィックス長	送り先のホスト
default	デフォルト経路

[初期値]: -

• GATEWAY: ゲートウェイ

[設定値]:

- IP アドレス % スコープ識別子
- pp PEER\_NUM [dldci=DLCI]: PP インターフェースへの経路。  
"dldci=dldci" が指定された場合は、フレームリレーの DLCI への経路
- PEER\_NUM
  - 相手先情報番号
  - anonymous
- pp anonymous name=NAME

設定値	説明
name	PAP/CHAP による名前

• dhcp INTERFACE

設定値	説明
INTERFACE	DHCP にて与えられるデフォルトゲートウェイを使う場合の、DHCP クライアントとして動作する LAN インターフェース名、ブリッジインターフェース名(送り先が Default の時のみ有効)

• ra INTERFACE ★

設定値	説明
INTERFACE	RA にて決定されるデフォルトゲートウェイを使う場合の、RA クライアントとして動作する LAN インターフェース名、ブリッジインターフェース名(送り先が Default の時のみ有効)

- tunnel TUNNEL\_NUM: トンネルインターフェースへの経路
- LOOPBACK インターフェース名、NULL インターフェース名

[初期値]: -

• PARAMETER: 以下のパラメーターを空白で区切り複数設定可能

[設定値]

---

## 設定値 説明

---

**metric** メトリックの指定

- METRIC**     • **METRIC**  
              • メトリック値 (1..15)  
              • 省略時は 1

**hide**   出力インターフェースが **LAN** インターフェース、または **PP** インターフェース、**TUNNEL** インターフェースの場合のみ有効なオプションで、回線が接続されている場合だけ経路が有効になることを意味する

[初期値] : -

### [説明]

**IPv6** の経路情報を追加する。**LAN** インターフェースが複数ある機種ではスコープ識別子でインターフェースを指定する必要がある。インターフェースに対応するスコープ識別子は **show ipv6 address** コマンドで表示される。

**LAN** インターフェースがひとつである機種に関しては、スコープ識別子が省略されると **LAN1** が指定されたものとして扱う。

なお **LOOPBACK** インターフェース、**NULL** インターフェースは常にアップ状態なので、**hide** オプションは指定はできるものの意味はない。

### [ノート]

**RTX1220**、**RTX1210**、**RTX830**、**RTX810** では、**PP** インターフェースの **dlci=** オプションは指定できない。

**ra interface** は **RTX830 Rev.15.02.27** 以降、**RTX1300 Rev.23.00.05** 以降、**NVR700W Rev.15.00.24** 以降、**NVR510 Rev.15.01.25** 以降のファームウェアで指定可能。

ブリッジインターフェースは **RTX810 Rev.11.01.21** 以降、**RTX5000 / RTX3500 Rev.14.00.12** 以降のファームウェア、および、**Rev.14.01** 系以降のすべてのファームウェアで指定可能。

[9] **IPv6** の経路情報に変化があった時にログに記録するか否かを設定するコマンドを追加した。

○**IPv6** の経路情報に変化があった時にログに記録するか否かの設定 ★

### [書式]

**ipv6 route change log LOG**  
**no ipv6 route change log [LOG]**

[設定値及び初期値]

- **LOG**

[設定値] :

- on** : **IPv6** 経路の変化をログに記録する
- off** : **IPv6** 経路の変化をログに記録しない

[初期値] : **off**

### [説明]

**IPv6** の経路情報に変化があった時にそれをログに記録するか否かを設定する。ログは **INFO** レベルで記録される。

[10] **Web GUI** の **LAN** マップで、通知に表示された機器の **MAC** アドレスをクリックすると、接続機器ビューで当該機器の検索が実行されるようにした。

[11] **LAN** マップで、スイッチのゼロコンフィグ機能に対応した。

これに伴い、`switch control config-auto-set use` コマンドを追加した。

○スイッチのゼロコンフィグ機能を使用するか否かの設定

[書式]

```
switch control config-auto-set use USE
no switch control config-auto-set use [USE]
```

[設定値及び初期値]

・ USE

[設定値]:

on: 使用する

off: 使用しない

[初期値]: off

[説明]

スイッチのゼロコンフィグ機能を使用するか否かを設定する。

スイッチのゼロコンフィグ機能が有効かつ、L2MSエージェントのヤマハスイッチの設定（コンフィグ）が保存されている場合、工場出荷状態のL2MSエージェントがネットワークに接続されたときに、保存されている設定（コンフィグ）を自動で設定する。

[12] LANマップで、複数のL2MSマネージャーが検出されたとき、警告を表示するようにした。

[13] LANマップで、SWX2200/2100/2110シリーズのファームウェアを更新するとき、PCに保存されたファイルを使用できるようにした。

[14] Web GUIのかんたん設定および詳細設定の[プロバイダー接続]-[IPv4 over IPv6 トンネルの設定]で、以下のサービスに対応した。

- transix
- v6 コネクト
- クロスパス (Xpass)

## ■仕様変更

[1] IPv6の処理性能を改善した。

[2] LANマップで使用するOUIファイルの情報を更新した。

2023年上期からヤマハが使用するOUIが追加になります。詳細は以下のドキュメントをご確認ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/RT/FAQ/TOPIG/macaddress.html>

[3] Luaスクリプト機能で、`rt.httprequest`関数のHTTPリクエスト設定テーブルのurlフィールドの最大文字数を半角255文字から半角2048文字に変更した。

[4] RAプロキシで、RAによるプレフィックスのpreferred lifetimeが残り60秒になったとき、RSを送出するようにした。

[5] `ipsec ike duration`コマンドのKBYTESパラメーターを以下のように変更した。

- 最大値を100000から2147483647に変更
- 初期値なしから2000000に変更

この修正により、初期値で2GBのバイト寿命を持つため、IPsec SA (CHILD SA) が古くなったとき、`forced-reduction`オプションの設定がない場合でも、自動的に秒寿

命が30秒に短縮される。

またバイト寿命の最大値が2,147,483,647KBの機種が始動側になる場合は、相手側機器がバイト寿命の最大値が2,147,483,647KBの機種ではないとき、バイト寿命を必ず2GB以下に設定する必要がある。

#### OSAの寿命の設定

[書式]

```
ipsec ike duration SA GATEWAY_ID SECOND [KBYTES] [rekey REKEY] [forced-  
reduction=DEL_TIME]
```

```
no ipsec ike duration SA GATEWAY_ID [SECOND [KBYTES] [rekey REKEY] [forced-  
reduction=DEL_TIME]]
```

[設定値及び初期値]

- SA

[設定値]:

設定値	説明
ipsec-sa (もしくは child-sa)	IPsec SA (CHILD SA)
isakmp-sa (もしくは ike-sa)	ISAKMP SA (IKE SA)

[初期値]: -

- GATEWAY\_ID

[設定値]: セキュリティー・ゲートウェイの識別子

[初期値]: -

- SECOND

[設定値]: 秒数(300..691200)

[初期値]: 28800

- KBYTES

[設定値]: キロ単位のバイト数

設定値	説明
100..2147483647	キロ単位のバイト数 (NVR700W Rev.15.00.24以降、 NVR510 Rev.15.01.25以降のファームウェア) ★
100..100000	キロ単位のバイト数 (その他のファームウェア) ★
off	設定しない ★

[初期値]:

- 2000000 (NVR700W Rev.15.00.24以降、NVR510 Rev.15.01.25以降のファームウェア) ★

- off (その他のファームウェア) ★

- REKEY: SAを更新するタイミング

[設定値]:

設定値	説明
70% - 90%	パーセント
off	更新しない(SAパラメーターでisakmp-sa (ike-sa) を指定したときのみ設定可能)

[初期値]: 75%

- DEL\_TIME

[設定値]: 古くなったSAの寿命を強制的に短縮する時間(1..691200)

[初期値]: -

[説明]

各 SA の寿命を設定する。

**KBYTES** パラメーターを指定した場合には、**SECOND** パラメーターで指定した時間が経過するか、指定したバイト数のデータを処理した後に SA は消滅する。

**KBYTES** パラメーターは SA パラメーターとして **ipsec-sa (child-sa)** を指定したときのみ有効である。SA の更新は **KBYTES** パラメーターに設定したバイト数の75%を処理したタイミングで行われる。また、**IPsec SA (CHILD SA)** が更新されたとき古くなった既存の **IPsec SA (CHILD SA)** の寿命が 30 秒以上である場合は、寿命が 30 秒に短縮される。★

**REKEY** パラメーターは SA を更新するタイミングを決定する。例えば、**SECOND** パラメーターで 20000 を指定し、**REKEY** パラメーターで75%を指定した場合には、SA を生成してから 15000 秒経過したときに新しい SA を生成する。**REKEY** パラメーターは **SECOND** パラメーターに対する比率を表すもので、**KBYTES** パラメーターの値とは関係がない。

SA パラメーターで **isakmp-sa(ike-sa)** を指定したときに限り、**REKEY** パラメーターで 'off' を設定できる。このとき、**IPsec SA (CHILD SA)** を作る必要がない限り、**ISAKMP SA (IKE SA)** の更新を保留するので、**ISAKMP SA (IKE SA)** の生成を最小限に抑えることができる。

その他、動作するIKEのバージョンによって異なる、本コマンドの影響、注意点については以下の通り。

• IKEv1

始動側として働く場合に、このコマンドで設定した寿命値が提案される。応答側として働く場合は、このコマンドの設定に関係なく相手側から提案された寿命値に合わせる。

また、**ISAKMP SA** に対する **REKEY** パラメーターを off に設定した場合、その効果を得るためには、次の2点に注意して設定する必要がある。

1. **IPsec SA** よりも **ISAKMP SA** の寿命を短く設定する。
2. **ダンダリングSA**を許可する。すなわち、**ipsec ike restrict-dangling-sa** コマンドの設定を off にする。

**NVR700W** または、**NVR510**、**RTX1300**、**vRX** が始動側になる場合は、最大で 2147483647 KB のバイト寿命値を相手側へ提案可能であるが、相手側機器が **NVR700W** および、**NVR510**、**RTX1300**、**vRX** 以外の場合は 2 GB を超えるバイト寿命値を正しく認識できないため、**NVR700W** および、**NVR510**、**RTX1300**、**vRX** 以外の機種と接続する場合は必ず 2 GB 以下に設定する必要がある。★

• IKEv2

**IKEv2** では SA 寿命値は折衝されず、各セキュリティー・ゲートウェイが独立して管理するものとなっている。従って、確立された SA には、常にこのコマンドで設定した寿命値がセットされる。ただし、相手側セキュリティー・ゲートウェイの方が SA 更新のタイミングが早ければ、SA はその分早く更新されることになる。

**forced-reduction** オプションに時間を指定すると、SA を更新した際に古くなっ

た既存の SA の寿命を強制的に設定値に変更し、消滅までの時間を早めることができる。ただし、IPsec SA (CHILD SA) で KBYTES パラメーターにバイト寿命値を指定している場合は、DEL\_TIME パラメーターで 31 秒以上の値を設定していても、短縮される値は 30 秒となる。また、IKEv1 では寿命が設定値よりも短い場合は変更しない。

ISAKMP SA (IKE SA) の寿命が IPsec SA (CHILD SA) の寿命より先に尽きた場合は、ISAKMP SA (IKE SA) の寿命値を IPsec SA (CHILD SA) の寿命値に合わせる。

なお、このコマンドを設定しても、すでに存在する SA の寿命値は変化せず、新しく作られる SA にのみ、新しい寿命値が適用される。

[ノート]

forced-reduction オプションは以下の機種およびリビジョンで使用可能。

NVR700W は Rev.15.00.24以降で使用可能。

NVR510 は Rev.15.01.25 以降で使用可能。

[6] 以下のとき、USB、SDインターフェースの給電停止時間を10秒に変更した。

- interface resetコマンドを実行したとき (変更前3秒)
- モバイル端末との接続に問題が発生したときのモバイル端末再アタッチ処理をしたとき (変更前1秒)

[7] モバイルインターネット接続機能で、モバイル端末をアタッチした際に、自局番号の取得に一定回数失敗した時、自局番号を取得せずにインターネットに接続できるようにした。

自局番号を取得しない場合、show status usbhost コマンドにて、ダミーの自局番号"-----"が表示される。

[8] ipsec ike local idコマンド、およびipsec ike remote idコマンドを設定したとき、SAの削除およびIKEの初期化を行うようにした。

[9] tunnel templateコマンド実行時に進捗状況を示すメッセージを出力するようにした。

[10] カスケード接続機能の設定で、以下の用語を変更した。

- マスター(Master)/スレーブ(Slave)→マネージャー(Manager)/エージェント(Agent)

ヤマハネットワーク製品における今回の用語変更の詳細については、以下のURLをご覧ください。

<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/notice/terms/terms-change.html>

[11] Web GUIのかんたん設定の[プロバイダー接続]および詳細設定の[プロバイダー接続]で接続種別にIPv6 IPoE接続を選択したとき、以下のIPv4 over IPv6トンネルを設定できるようにした。

- BIGLOBE
  - IPv6 オプション
  - IPv6 サービス (IPIP)

[12] Web GUIのダッシュボードのUTXセキュリティーガジェットで、UTXからのセキュリティーレポートの取得に失敗し、「UTXからレポートを取得できませんでした。」というエラーが表示される可能性を排除した。

- [13] Web GUIの以下のプロバイダー接続の設定時に、設定されるLuaスクリプトのインデントを削除した。スクリプトの動作に変更はない。
- かんたん設定の[プロバイダー接続]
  - 詳細設定の[プロバイダー接続]
    - OCNバーチャルコネクト 固定IP1契約
    - 「v6プラス」 固定IPサービス
- [14] Web GUIのかんたん設定の[プロバイダー接続]および詳細設定の[プロバイダー接続]で、接続種別にIPv6 IPoE接続を選択したとき、以下のIPv4 over IPv6 トンネルを設定できるようにした。
- v6 コネクト
    - IPv4 over IPv6 接続 (DS-Lite)
- [15] Web GUIの以下のページで、機器のIPアドレスを表示するようにした。
- LANマップの[機能一覧]-[エージェント一覧]
  - LANマップの[一覧マップ]のマネージャー機器
- [16] Web GUIのかんたん設定、および詳細設定の[プロバイダー接続]ページで、v6プラスとOCNバーチャルコネクトの表記を一部変更した。
- [17] Web GUIの以下のページで、「v6プラス」 固定IPサービスを設定したとき、トンネルインターフェースのMTUの値を1280から1460へ変更した。
- かんたん設定の[プロバイダー接続]
  - 詳細設定の[プロバイダー接続]
- [18] Web GUIのLANマップで、デザインやレイアウト等を修正し、視認性や操作性を改善した。
- [19] Web GUIの全般の[はじめに]のヘルプページで、「JavaScriptの設定」の記載内容を変更した。
- [20] Web GUIの詳細設定の[プロバイダー接続]のヘルプで、「1.概要」の「IPv6 IPoE接続」に説明を追記した。
- [21] WebGUIのヘルプにWDX222に関する記述を追加した。
- [22] Web GUIの管理の[保守]-[コマンドの実行]のヘルプページの実行できないコマンド一覧に、以下のコマンドを追記した。
- administrator passwordコマンド
  - administrator password encryptedコマンド
  - copyコマンド
  - copy execコマンド
  - deleteコマンド
  - delete execコマンド
  - execute batchコマンド
  - lessで始まるコマンド
  - login passwordコマンド
  - login password encryptedコマンド
  - make directoryコマンド
  - password reenterコマンド
  - renameコマンド
  - rtfs formatコマンド

- `rtfs garbage-collect` コマンド
- `scp` コマンド
- `ssh` コマンド
- `sshd host key generate` コマンド
- `|` で `grep` を連結したコマンド
- `|` で `less` を連結したコマンド

## ■ バグ修正

- [1] LAN インターフェースやトンネルインターフェースなどの複数のインターフェースで同時にキープアライブがダウンしたとき、リブートすることがあるバグを修正した。
- [2] L2TP/IPsec 接続で、大量のクライアントを一斉に接続するとリブートすることがあるバグを修正した。
- [3] `pp select` コマンドで接続先を選択している状態、または `switch select` コマンドでスイッチを選択している状態のときに、`tunnel enable/disable` コマンドの設定変更や `load` コマンドで設定を読み込むと、トンネル接続の設定が正しく反映されなかったり、リブートすることがあるバグを修正した。
- [4] Web GUI の [管理]-[保守]-[CONFIG ファイルの管理] で、「CONFIG ファイルのインポート」から PC 上に保存されている CONFIG ファイルをインポートするとリブートすることがあるバグを修正した。
- [5] 以下のコマンドにより外部メモリーに統計情報を保存する設定がされているとき、ごく稀にリブートすることがあるバグを修正した。
  - `external-memory statistics filename prefix` コマンド
  - `statistics` コマンド
- [6] `ipsec transport` コマンドを上書き設定するとメモリーリークが発生するバグを修正した。
- [7] Web GUI の詳細設定の [メール通知]-[登録されているメールサーバーの一覧] で、メールサーバーの設定をするとメモリーリークが発生するバグを修正した。
- [8] LAN マップで、端末情報が大量に蓄積された状態で新規端末を検出すると、メモリーリークが発生することがあるバグを修正した。

Rev.15.01.19 以降で発生する。

- [9] 以下のプロバイダー接続を設定しているとき、Web GUI のかんたん設定から VPN 接続の設定をしても接続できないバグを修正した。
  - BIGLOBE IPv6 サービス (IPIP)
  - OCN バーチャルコネクト 固定 IP1/8/16 契約
  - transix IPv4 接続 (固定 IP)
  - v6 コネクト IPv4 over IPv6 接続 (IPIP)
  - 「v6 プラス」固定 IP サービス
  - クロスパス (Xpass) 固定 IP1/8/16 契約
- [10] フィルター型ルーティングを使用しているとき、ルーターから `telnet` コマンドや `rdate` コマンドなどを実行すると、通信できないバグを修正した。
- [11] IPsec IKEv1 メインモードで、トンネルアップした約 30 秒後にトンネルダウンする

ことがあるバグを修正した。

[12] 以下のデータ通信端末で、接続できなくなることがあるバグを修正した。

- UX302NC Ver.1.0.8以降
- UX302NC-R

[13] IPv6機能で、DHCPv6のIRに対するReplyを連続で受信したとき、DNSサーバー情報が取得できないバグを修正した。

[14] OCNバーチャルコネクト 固定IP8/16契約で、以下の条件をすべて満たす場合に、MAP-Eトンネルに設定されたグローバルIPv6アドレスが更新されずIPv4通信ができなくなるバグを修正した。

- MAP-EトンネルにIPマスカレードの設定がない
- NGN網を介したリナンバリングが発生した

[15] QoSで、show status qosコマンドのクラスごとの使用帯域とピーク値が、実際の値より大きく表示されることがあるバグを修正した。

[16] LOOPBACKインターフェース、NULLインターフェースに適用されたIPフィルターが動作しないことがあるバグを修正した。

[17] フィルター型ルーティングを使用しているときに発生する以下のバグを修正した。

- ルーターからhttp revision-up goコマンドなどを実行すると通信できないことがある
- Luaスクリプトを使用してHTTPで通信できないことがある
- YNOでHTTPSプロキシサーバーを使用していると通信できないことがある
- RADIUS認証に失敗することがある
- SNMPトラップのパケットにルーターのエージェントアドレスが設定されないことがある

[18] ip routeコマンドで、フィルター型ルーティングの設定をしたとき、不適切なエラーメッセージが表示されることがあるバグを修正した。

[19] HTTPリビジョンアップ機能で、ファームウェアを更新したときに出力されるログの誤記を修正した。

[20] tunnel templateコマンドで以下のコマンドが展開されないバグを修正した。

- ipsec ike backward-compatibilityコマンド
- ipsec ike mode-cfg methodコマンド

[21] 以下のコマンドで、不正なオプションを設定することができるバグを修正した。

- dns severコマンド
- dns sever dhcpコマンド
- dns sever ppコマンド
- dns sever selectコマンド

[22] ip INTERFACE intrusion detectionコマンドで、オプションに誤った文字列を指定したとき、エラーが表示されないバグを修正した。

[23] SNMPで、SERIALポートからのログイン情報を表す以下のMIB変数がSFTPからのログアウトを契機に不当に変更されるバグを修正した。

- yrfLoginSerial
- yrfLoginStatus
- yrfLoginUser

- [24] YNOエージェント機能で、YNOマネージャーの[SYSLOG管理]-[リアルタイム表示]でSYSLOGが表示されなくなることがあるバグを修正した。  
ルーターの内部時計を過去の時間に戻したときに発生する。
- [25] HTTPサーバー機能で、リクエストヘッダーやエンティティヘッダーの、ヘッダー名の大文字小文字の違いが無視されないバグを修正した。
- [26] L2TP/IPsec機能で、不要なログが出力されることがあるバグを修正した。  
Rev.15.01.23以降で発生する。
- [27] copy configコマンドで、外部メモリー上にある設定ファイルを内蔵フラッシュROMにコピーすると、不要なログが出力されるバグを修正した。  
Rev.15.01.23以降で発生する。
- [28] モバイルインターネット接続機能で、SIMカードが正しく認識されていない場合でも、syslogに“found SIM card”と出力するバグを修正した。
- [29] モバイルインターネット接続機能で接続時に電波受信レベルが圏外で発呼が中断されたとき、show historyコマンドの通信履歴に“通信中”という履歴が表示されるバグを修正した。
- [30] YNOエージェント機能で、YNOエージェントが起動するタイミングでYNOのコマンドを変更すると、configは設定されるが、実行されないことがあるバグを修正した。
- [31] DHCPv6のIRに対するReplyにReconfigure Acceptオプションが付与されていた場合、Replyを処理しないバグを修正した。
- [32] Web GUIの以下のプロバイダー接続で各設定項目に長い文字列を設定したとき、インターネットに接続できないことがあるバグを修正した。  
- OCNバーチャルコネクト 固定IP1契約  
- 「v6プラス」固定IPサービス
- [33] Web GUIの詳細設定の[DNSサーバー]-[DNSサーバー機能の基本設定]ページで、「DNSサーバー機能を使用する(リカーシブサーバー)」を設定したとき、dns serviceコマンドの初期値が明示的に設定されるバグを修正した。
- [34] Web GUIのかんたん設定の[プロバイダー接続]で、モバイル接続(イーサネット方式)を設定するとき、プライマリーDNSサーバーのみアドレスを指定して設定すると、不正なセカンダリーDNSサーバーのアドレスが設定されるバグを修正した。
- [35] Web GUIのかんたん設定の[プロバイダー接続]で、IPv6 PPPoE接続を設定したとき、ppp ipcp msextn onコマンドが設定されないバグを修正した。
- [36] LANマップで、端末情報が蓄積された状態で端末管理機能を一旦無効にしてから有効にした場合、検出できる端末の数が減少するバグを修正した。  
Rev.15.01.19以降で発生する。
- [37] Web GUIのLANマップで、スナップショットが有効の状態でも消失状態のSWX2210シリーズ、SWX2220シリーズのアイコンをクリックすると、ブラウザーの表示が情報取得中表示から変わらなくなるバグを修正した。

- [38] Web GUIの詳細設定の[プロバイダー接続]で、IPv4 over IPv6トンネルの設定を「使用する」から「使用しない」に変更したとき、IPv4 over IPv6トンネルの設定が削除されないバグを修正した。
- [39] Web GUIの管理の[保守]-[コマンドの実行]で、入力できないコマンドが入力できてしまうことがあるバグを修正した。
- [40] Web GUIの管理の[保守]-[コマンドの実行]で、以下のコマンドが入力できないバグを修正した。
- administrator radius auth コマンド
  - ssh encrypt algorithm コマンド
  - ssh known hosts コマンド
- [41] Web GUIの以下のページで、IPアドレスを設定するとhttpd hostコマンドが不当に書き換わることがあるバグを修正した。
- かんたん設定の[基本設定]-[LAN1アドレス]
  - 詳細設定の[LAN]-[IPアドレス]
- [42] Web GUIのLANマップの接続機器ビューと[一覧マップ]で、SWX2220-10NT/SWX2221P-10NTのポート10配下に端末もしくはL2MSエージェントが接続されているとき、ポート10のVLAN設定を表示するべき箇所にポート9のVLAN設定が表示されるバグを修正した。
- [43] Web GUIのかんたん設定で、以下のボタンの文字列が見切れて表示されることがあるバグを修正した。
- [基本設定]
  - [日付と時刻]
  - [管理パスワード]
  - [LANアドレス]
  - [VPN]
  - [拠点間接続]
  - [リモートアクセス]
  - [クラウド接続]
- [44] LANマップで、SWX2220/SWX2221PのコンボポートのマルチプルVLANの設定が、設定ダイアログに正しく表示されないバグを修正した。
- [45] Web GUIのLANマップの以下のページで、スタックに対応したヤマハスイッチ配下のエージェントのVLAN IDが表示されないバグを修正した。
- マップページ
  - マルチプルVLANページ
  - 一覧マップページ
- [46] Web GUIのLANマップで、L2MSの動作モードをエージェントに設定したとき、ログに不正なコマンド名が表示されるバグを修正した。
- [47] Web GUIの以下のページで、8桁のフィルター番号を設定したとき、1の位が表示されないバグを修正した。
- 詳細設定の[セキュリティ]-[IPフィルター]-[適用されている IPv4 フィルターの一覧]-[インターフェースへの適用の設定]
  - 詳細設定の[セキュリティ]-[IPフィルター]-[適用されている IPv4 フィルターの一覧]-[インターフェースへの適用の設定]-[入力内容の確認]

- 詳細設定の[セキュリティ]-[IPフィルター]-[適用されている IPv6 フィルターの一覧]-[インターフェースへの適用の設定]
- 詳細設定の[セキュリティ]-[IPフィルター]-[適用されている IPv6 フィルターの一覧]-[インターフェースへの適用の設定]-[入力内容の確認]

[48] Web GUIのLANマップの[タグVLAN]で、iPad Safariでのアクセス時に、VLANの参加ポートを選択した状態でL2MSエージェントのポートをタップすると、ツールチップが表示されるバグを修正した。

[49] Web GUIの管理の[保守]-[CONFIGファイルの管理]-[CONFIGファイルのインポート]で、末尾に改行コードがないコンフィグファイルをインポートしたとき、最終行の設定内容が反映されないバグを修正した。

[50] Web GUIの以下のページで、「IPv6 IPoE接続」の「ひかり電話の契約」で「契約していない」を選択したとき、ngn typeコマンドが設定されないバグを修正した。

- かんたん設定の[プロバイダー接続]
- 詳細設定の[プロバイダー接続]

[51] Web GUIのLANマップの以下のページの入力欄で、全角文字が使用できないバグを修正した。

- [機器一覧]-[端末一覧]
- [機器一覧]-[端末情報DB]

Rev.15.01.22以降で発生する。

[52] Web GUIの以下のページで、「IPv6 IPoE接続」の「IPv4 over IPv6 トンネルの設定」に「OCN バーチャルコネクタサービス」を選択したとき、ipv6 source address selection ruleコマンドが設定されないバグを修正した。

- かんたん設定の[プロバイダー接続]
- 詳細設定の[プロバイダー接続]

[53] Web GUIの以下の画面で、デザインやレイアウト等を修正し、視認性や操作性を改善した。

- 管理の[本体の設定]-[DOWNLOADボタンの設定]-[ソフトウェアライセンス利用規約]
- 管理の[保守]-[ファームウェアの更新]-[ネットワーク経由でファームウェアを更新]-[ファームウェア更新の実行]

[54] Web GUIの以下のページで、誤記を修正した。

- LANマップの[マップ]-[機器詳細と設定]
- ヘルプページ
  - LANマップの[詳細]-[マップ]
  - かんたん設定の[プロバイダー接続]
  - 詳細設定の[プロバイダー接続]

[55] コマンドヘルプで、表示する文字列が不当に改行されることがあるバグを修正した。

[56] コマンドヘルプの誤記を修正した。

---

## ■更新履歴

Jul. 2023, Rev.15.01.25 リリース

以上